

総本山長谷寺 参拝旅行おわる

本年五月十五日(火)から十七日(木)二泊三日で、総本山長谷寺と奈良・京都・滋賀をめぐる参拝旅行を行いました。

太田市内「薬王寺」とさんと、常楽寺の二ヶ寺で計画したこの旅行には、十九名の方々に参加していただきました。

初日のバスの旅は、途中時折雨に降られました。初日は一直線に総本山長谷寺にバスを進め、ゆっくりに「本山の見学を済ませました。幸い見学時には雨もやみ、かさを持たずに見学することが出来ました。

糸井武男会長さんと、本城浩子が、総本山の参拝が五回目となるので、「本山から、

朝食を済ませた後は、長谷寺に近い天理市の『花の寺長岳寺』を訪ね、日本最古の玉眼佛の阿弥陀三尊像をはじめ、増長天・多聞天像を拝観して、みどり豊かな境内を散策、宇治の平等院へと向かいました。

宇治の平等院は、平安時代の貴族藤原氏の別荘を寺とし、極楽浄土の思想をこの世に表したもので、「本尊阿弥陀如来像をまつり、平等院と名づけたといえます。建物が周囲の池の水に浮かぶ、鳳凰の姿の堂宇を見学して、京都の醍醐寺へと向かいました。京都の醍醐寺は、真言宗醍醐派の総本山

表彰される」

となり、賞状と記念

品の折五条(輪袈裟)を頂戴いたしました。

第二日は、早朝、早起きをして長谷寺にのぼり、朝の勤行に参加しました。現在のこの本堂は三代將軍家光公によって建立された入母屋造りの正堂と礼堂からなる双堂の(ならびどりの形式で、前面に舞台が付いた大木造建造物で、国宝に指定されています。そのお堂の中で、たくさんのお坊さん方が声を響かせ繰り広げられる、荘厳な朝の「祈り」は「ころろが洗われ、法要の進むなかで、十メートルを超える日本一の大「十一面観世音菩薩」さまの姿が現れ感激しました。

で、弘法大師の孫弟子である理源大師が創建した名刹で、世界文化遺産に指定され、国宝や重要文化財だけでも四万点にもなるというお寺で、豊臣秀吉の『醍醐の花見』でも知られ、建物の多くが豊臣秀吉によって再建されたといえます。

三日目は、琵琶湖のほとり「おん温泉」を後にして、桜田門外事件で命を落した井伊大老の居城「彦根城」を見学、「ひじょう」の楽しい時間を過ごし、帰路に付きましました。次回には、紅葉の美しい秋の長谷寺を、訪ねてみたいものですね。

総本山長谷寺をテレビ放映

六月十二日(火)午後六時～六時五十分

BSフジテレビ(8チャンネル)

BSフジテレビ(8チャンネル)「古寺名刹

「ころろの百景」長谷寺」で、長谷寺の歴史・

寺宝と、寺と関わって生きる人々を紹介。

是非
ごらん下さい。

